

新設キャンプ場と

災害3カ所を調査

〈建設経済常任委員会〉

5月17日

●奥八女焚火の森キャンプフィールド

平成24年九州北部豪雨災害で流失した笠原地区きのこ村キャンプ場跡に木育の機能を合わせ持つ施設としてオープン。

4人用キャビン3棟、6人用コテージ2棟、キャンプサイト19区画他、おもちゃハウス兼母屋、サニタリー棟等を完備。
工事面積 約1万6千㎡
工事費 約4億4千万円



おもちゃハウス兼母屋の内部



熊渡川河川改良工事箇所

●星野村熊渡川河川改良工事

災害を抑えるための大型ブロック練積護岸と底張コンクリート工事。

長さ 74m
工事費 約4千3百万円

●林道星野線地すべり災害復旧工事

平成26年に一部崩壊し、翌27年災害で被災、その後被害は徐々に拡大した。調査で幅300m、高さ60mの地すべりと判明、本年度申請の予定。申請予定事業費

約5億4千万円

●上陽町宮ヶ原堰災害復旧工事

令和元年度に被災した頭首工の復旧工事。

総幅36・6m、高さ5・4mで3mの魚道を設置。本年の田植えに間に合うよう5月末までに竣工。
工事費 約1億3千7百万円

調査を終えて

▼「奥八女焚火の森キャンプフィールド」は、キャンプ場としてだけでなく、森林環境教育の場として活用予定で、地場物産の販売拠点、多世代の交流拠点として期待されています。

今年4月の開業以来、想定以上の利用であり今後も期待しています。▼毎年のように被災する農林道、水路等は直接農林業にかかわるものであり、早急に復旧を望むものです。

(橋本 正敏)

議会の新型コロナウイルス感染症対策

八女市議会では新型コロナウイルス対策委員会を設置し、ウイルス性の感染症に対処するための情報収集や議会内の対応策の協議をし、必要に応じて国や市への要望等を行っています。

議会における対応要領を見直し

緊急事態においても議会運営を維持していくために対応要領の見直しを行いました。

対応要領

- ・会議開催時の予防策（傍聴席の制限や換気、手洗い、マスク着用等）に取り組みます。
- ・市議会の危機管理として、議員の感染予防や業務継続計画について定めています。

オンライン会議への対応

これまで、オンライン会議の試行等を行ってきましたが、緊急時など委員会の参集が困難な場合等にオンライン会議で委員会が行えるよう条例等の改正を行いました。

八女市に対して要望活動を実施

要望書(第3回)を提出【5月7日】

緊急事態宣言地域に福岡県を加える政府の方針等を受け、市へ議会の要望を提出しました。

要望事項

- ・市公共施設の一時閉鎖について
- ・感染防止に対する市職員の危機管理の向上について

緊急申し入れを実施【5月13日】

議員に寄せられたご意見等を踏まえ、予防接種の受付対応や体制の強化、周知方法など議会としての意見や改善点の提案等について、市に対し申し入れを行いました。